

東伊建産第1161号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

東伊豆町長 太 田 長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについて、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- (1) 道路特定財源等に関する基本方針で、必要と判断される道路は着実に整備するということが示されたが、必要な道路とはどのような判断のもとに決定をしていくのか、そのプロセスを公表することによって国民の理解を得ることも今後の道路行政の安定化を図る面からも考えていく必要がある。
- (2) 現在、伊豆縦貫自動車道や補助による地方道路の整備が進められているが、進捗度が非常に遅いため十分な効果が得られていないのが現状であると考えています。
- 経済活動の拡大や利便性の向上を図るためには、道路等のインフラの整備が不可欠であり、そのためには多額の財政負担を伴うことになるが、早期に事業の完成を図ることが重要であると考えます。
- (3) 伊豆半島などの半島に居住する住民は、その地形的な条件から最初から様々な面でハンデを背負っております。
- 産業的に見ると観光産業以外にはこれといった産業もなく、経済の低迷は人口の急激な減少を招くことになり、少子高齢化が急速に進んでいます。
- これらの課題を解決するためには観光客を増加させ、地域経済の活性化を図ることが重要であり、そのため基盤となる道路整備が急務となっています。
- (4) 東伊豆町～伊東市間は伊東市八幡野交差点で、連休や行楽シーズンには下田方面から京浜地区に向かう車が大渋滞をおこし、観光客の誘客に支障をきたすだけではなく、地域住民の日常生活にも大きな影響を及ぼしています。
- 東伊豆町から伊東市池地区に通じる国道135号のバイパスが整備されれば、京浜地区に向かう車は伊豆スカイライン、中伊豆バイパス方面を經由し国道136号への連結、伊東市内を迂回しての国道135号への再連絡道路として選択が広がり交通渋滞も解消されることになります。
- さらに現在、伊東市、伊豆市、東伊豆町の2市1町で伊豆横断道路の建設促進期成同盟会を結成し、伊東市池地区から伊豆市土肥地区までの伊豆横断道路建設の推進を図っており、この道路が整備されることになると伊豆スカイライン、伊豆縦貫自動車道へのアクセス道路として役割が期待されております。
- この国道135号のバイパスの整備は、道路の果たすべき役割を拡大させるのに十分な機能を持っており、実現に向け早期の整備をお願いするものであります。
- (5) 伊豆は、全国に名を馳せる大観光地であり、年間4,000万人を超える観光客が訪れておりますが、リゾート地として喜ばれる反面、道路事情が非常に悪いことにより伊豆全体のイメージダウンにつながっています。
- これらの課題を解消するためには、他のどの地区よりも早期の総合的な道路の建設促進が図られなければならない地区であると考えております。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

- (1) 当町の骨格をなす道路は、急峻な斜面の海岸線に開設された国道135号しかなく、連休や行楽シーズンには常に渋滞し、救急患者の搬送や消防活動等の緊急車輛の通行に支障をきたすとともに、災害時には、たびたび分断されるなど、産業経済活動や日常生活に支障が生じている。
- (2) 町内の生活道路については、道幅が狭く、行楽シーズンには大型バスやトラックのすれちがいが困難で、町内の各所で渋滞がおきている。
- (3) 町内の主要幹線道として、各地域を連結する大きな道路がなく、狭隘な道路を使用して日常生活が行われており、住民は不便をきたしている。
- (4) 短時間に近隣市町村と連結できる伊豆縦貫自動車道の建設が進められているが、当町からの直接のアクセスができない状況にある。

○課題

- (1) 交通渋滞の解消や災害時の安全な道路の確保には、当町から伊東市池地区への国道135号のバイパスの整備が強く望まれている。
この国道の135号のバイパス化は現在、伊東市、伊豆市、東伊豆町の2市、1町により推進を図っている伊東市池地区から伊豆市土肥地区への伊豆横断道路に連結する連絡道として、また、その道路を利用した伊豆スカイラインへの連結や伊豆縦貫自動車道へのアクセス道路としての機能をもった道路と位置づけられており、早期の整備を図ることが最大の課題である。
- (2) 現在、東伊豆町の中心地である稲取地区の幹線道路である県道稲取港線の拡幅改良事業が実施されているが、事業費の関係から進捗度が遅く効果が現れていないのが実情です。
伊豆縦貫自動車道等主要道路の整備はもちろんであります、国の補助事業につきましても安定的な財源の確保が課題である。
- (3) 町内の幹線道路かつ国道135号の迂回路的な機能を果たす道路として、また地域を結ぶ広域道路として、半島振興法に基づき県代行で実施されている町道湯ヶ岡赤川線については、着手から20年以上が経過しているが全体延長5.5kmの内、2kmが完成したに過ぎず、事業効果が十分発揮されていない状況である。
全区間の事業継続実施及び早期完成を図るための安定的な財源の確保が課題である。
- (4) 伊豆縦貫自動車道の建設促進により、伊豆南方面（河津・下田）に向かい順次工事が進められているが、当町からの直接のアクセスができない中で、どのようなアクセス体系を構築するかが課題となっている。

②-2 地域の目指すべき将来像

基本構想で、私たちの町は豊かな自然に恵まれた町です。この豊かな自然の中で町民憲章に謳われている5つの理念を兼ね備えた、安心して生活でき、健康で明るく住みよい、うるおいのあるまちづくりを推進していきます。

そして21世紀初めの私たちの町が目指すまちづくりの将来像を「輝き・やすらぎ・集えるまち東伊豆」に設定するとした中で、第3章 まちづくりの基本方針の快適・安心・やすらぎのまちとして、快適空間を創造するまちと定め、広域幹線道路の早期実現と生活道路・交通網の整備として、物資の流通や観光産業の振興、災害や救急医療対策等のためにも近隣都市部との短時間連絡が不可欠であるとして伊豆縦貫自動車道の建設促進及び伊豆スカイライン南進の実現、国道135号の渋滞解消や防災対策等について、近隣市町村との連携を図り、推進していくとしております。

緊急車輛の進入不可能な狭隘道路については、十分な道路幅員の確保を推進していくとしており、また、歩道を整備し、景観やバリアフリーに配慮した安全で楽しい道路づくりを推進しますとしている。

基本計画では、道路網について、私たちの町の主要幹線道路は、伊豆半島の東海岸沿いを南北に横断する国道135号1路線のみで、週末や観光シーズンには慢性的な交通渋滞を引き起こし、救急患者の搬送や消防活動等の緊急車輛の通行に支障をきたすなど住民生活にも影響を及ぼしています。

さらに、この国道135号は急峻な海岸線に沿って建設されているため、地震や集中豪雨による土砂崩れの危険性が常につきまとい、ひとたび交通が遮断されれば陸の孤島となることは過去の災害でたびたび経験しております。

今後は渋滞がなく、災害に強く、安全で短時間に近隣都市部と結ばれる伊豆縦貫自動車道や伊豆スカイラインの南進を実現することが必要です。

また、住民生活に直結した町内の道路は幅員が狭く違法駐車等により、緊急車輛の通行もままならない状態であり、歩行者にとっても大変危険な箇所が多く見受けられ、早急な改善が必要とされている。

基本方針として、現在事業実施中の伊豆縦貫自動車道を軸とし、これに繋がるアクセス道路の建設や伊豆スカイラインの南進など、広域幹線道路網の早急な整備と、国道135号の渋滞解消について、近隣市町村と連携して推進していくとともに、町道湯ヶ岡赤川線の継続や農免農道の延長、既存道路の拡幅を実施し、渋滞時や緊急時の迂回路としても効果を発揮する道路として整備していきます。

また、町内の狭隘道路の拡幅や歩道整備、バリアフリー化を進め、人々が親しみやすく安全で、快適な道路づくりに勤めていくとしている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

静岡県東伊豆町

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・渋滞の解消と地域活性化 ・地域経済の活性化と広域化の推進 ・安全で快適な道路の確保 ・安全で快適な道路の確保	・国道135号の東伊豆町～伊東市池地区へのバイパス道路の整備 ・伊豆縦貫自動車道へのアクセス道路の整備 ・町道湯ヶ岡赤川線の拡幅改良整備 ・県道稲取港線の拡幅改良整備	・交通渋滞の解消及び災害に強く、安全な道路の確保 ・近隣都市部との短時間連結の確立と物資の流通の向上及び観光産業の振興 ・地域間連絡道路の確保及び国道135号のバイパス的利用による利便性の向上 ・歩行者の安全確保及び町内の交通渋滞の解消	